

令和5年度総合教育会議概要

1 総合教育会議とは

教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、区長との連携強化を図るために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項の規定に基づき設置した会議体

2 開催日時

令和5年9月7日（木）10時30分から12時00分まで（公開で実施）

3 開催場所

教育支援センター

4 構 成 員

区長、教育委員会（教育長、教育委員4名（欠席1名））、計6名

※その他、事務局職員として政策経営部長・総務部長・教育委員会事務局次長・地域教育力担当部長ほか関係部課長が会議に出席した。

5 議 題 等

（1）令和4年度総合教育会議の検討課題の報告

資料1

令和4年度総合教育会議のテーマ「誰一人取り残さないための居場所づくりについて—青少年の社会的自立に向けた力をはぐくむために」について、検討課題に関する主な取組状況の報告があった。

（2）議題

「スポーツや文化芸術など生涯学習社会をめざした部活動の地域移行」

① プレゼンテーション

「区立中学校の部活動の現状」

板橋第三中学校長

資料2

「ジュニアリーダー活動の現状について」

地域教育力推進課長

資料3

今年度のテーマについて、区立中学校の部活動の現状、ジュニアリーダーの活動の事例についてプレゼンテーションを実施した。

② 協議

始めに区長から発言があり、続いて、各委員から意見が出され、協議が進められた。

6 会議要旨

【区長】

- ・子どもは、学校における学業のほか、スポーツや文化芸術活動、地域活動など、様々な体験を重ねる中において、健やかに育ち、多様な人々との関わり合いを通して成長していく。
- ・小学生時代は、学校外で、体験型の成長機会があり、中学生になると、部活動を楽しみに進学に胸を膨らませることもあるが、最近の区立中学校の部活動現場は、少子化による生徒の活動機会の減少が現実のものとなっている。
- ・中学校の部活動を教員の長時間労働という視点で見ると、現在、区立中学校は、基本的にすべての教員が、部活の顧問であり、区教育委員会の「板橋区立中学校部活動の在り方に関する方針」に沿って、平日や土日のどちらかに毎週出勤している。
- ・OECDの国際教員指導環境調査「TALIS（タリス）」の最新の調査では、日本の中学校の先生の実態を見ると、週の仕事時間が48カ国中トップであり、2位のカザフスタン以下との差が大きいことも特徴となっている。
- ・地域移行により、学校の部活動と同等の選択肢として、ジュニアリーダー活動も、多様な参加者を得られる好機となる。活動の頻度が増え、世代を超えた交流が深まることも期待ができる。将来、地域に戻り、青少年委員としてジュニアリーダーを見守ることが多く見られるようになるかもしれない。
- ・同じような良い循環が、スポーツ分野や、文化芸術分野でも起こり、中学校部活動の改革が、生徒や先生のみならず、区の生涯スポーツ社会・生涯学習社会がさらに進展するという形によって、広く区民の方の人生をより豊かなものにすることができれば、「部活動を改革しなければならぬ」というピンチを、逆にチャンスに変えられたことになる。

教育委員会の意見

【高野委員】

- ・中学校長会と教育委員の懇談会で、各校の実態や困り事などの話を詳しく伺い、少子化による活動機会の減少という問題や、部活動が先生の負担となっていることを知り、見直す必要を強く感じた。
- ・部活動は学校だけの取組で、卒業とともに引退が常だったが、地域で活動できれば、卒業後も、スポーツや文化的活動に親しむことができる。
- ・ジュニアリーダー活動は、家庭や学校ではできない貴重な経験をすることができ、また、小学生から活動を継続していたジュニアリーダーにとって、高校卒業後の進路を考える際に、その経験が役立っている。
- ・中学生の地域での活動として、ジュニアリーダー活動が認知されれば、多様な参加者が増えていくかもしれない。
- ・ジュニアリーダー活動以外でも、地域移行により、活動の選択肢や頻度が増え、中学卒業後も、活動を継続することができ、また、地域の方や異年齢の人たちと、世代を超えた交流を深めるなど、生涯学習として、多くの経験をすることが期待できる。

【長沼委員】

- ・部活動をより良くするため、部活動改革を提唱してきたので、これまでの部活動が果たしてきた役割や、教育的意義、先生方の成果を認めつつ、これからは、「やりたい生徒とやりたい先生はできる、そうでない生徒と先生はやらなくて良い」という仕組みを作ることである。
- ・地域クラブ化では、世代を超えた交流ができるメリットや、成果追及型やゆるく楽しむ交流型に分けることも可能になり、学校部活動でできなかった新しい種目に取り組むこともできる。
- ・地域移行というよりも、地域展開と考えて、数校を含めたエリアで一つの地域クラブがあっても良いとして、展開のハードルを下げる。
- ・中学生が少子化の影響に関係なく、好きなスポーツや文化活動が地域でできる自治体に、子育て世代の保護者はお子さんとともに移り住んでくるが、板橋区は板橋区らしいやり方で進めて行ってほしい。
- ・まずは休日の部活動を早めに地域展開することである。教育委員会では、「土日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築」を掲げているので、この実現を強く求める。
- ・地域クラブへの展開の前に、「合同部活動」など、近隣校やICSや地域の協力を得ながら、理解を進めて行ってほしい。

【野田委員】

- ・保護者の立場から考えてみると、部活動が、地域の子どもたちに、日常の学校生活とは違った視点から、様々な学びや気づきが得られている。
- ・一つの目標の達成に向かって、自分なりに考え、試行錯誤しながら、継続していくことで、深い学びを得られている。
- ・様々な物事を前向きにとらえていくプラス思考も、強く身につくのではないかと思う。部活動で得られるもので、人の特徴や変化、自分の気持ちの移り変わり等に気づくことによって、心の成長に繋がると考えられる。
- ・行動力や思考力が、子どもたちの今後のキャリア形成に繋がり、活動を通じて得た自信が、これからの生活で生かされていくことに期待する。
- ・ジュニアリーダー活動は、地域の活動や表彰式で、子どもたちのコメント等を聞いていると、その地域の大人の皆様や、違う学年の子どもたちと共同しながら、活動を経験するということところが部活動と同じで、貴重な経験を積んでいく、非常に良い場所である。
- ・地域活動の始まりでもあるこの活動については、町会や青健委員会の次世代の担い手候補として、非常に有力な人材として、今後の活躍を期待したい。

【教育長】

- ・部活動の地域移行の議論は、制度自体に幾つか課題があるが、部活動そのものが悪いということではなく、部活動には、これまで果たしてきた役割や意義が多分にある。
- ・参加する生徒の達成感の獲得、自己肯定感、責任感、連帯感の受容、時には、学習意欲の向

上に資することなどもあり、教育的意義を有してきた。

- ・板橋は、極端な少子化が見えにくいゆえに、大きな問題になっていないが、このまま、もし何もしなければ、部活動は衰退してしまう可能性が高い。
- ・教員の人事異動に伴い、その部活動が消滅せざるをえない状況が、少ないながらもあり、生徒は、その活動を通じて得られたであろう成長の機会を失ってしまう。そうなる前に、策を今打たなければならない。
- ・国が示している部活動の地域移行は、何か地域に丸投げするというイメージを与えかねないが、部活動が失いかけている持続可能性を維持しつつ、生徒たちに成長する機会を提供することや、様々な良さを引き継いでいくという点で、この課題の解決策として、地域移行というのは有効な手段である。
- ・部活動の地域移行については、生徒視点で、子ども視点での環境づくりが大切である。
- ・学校部活動の地域移行を行うには、様々な課題が発生するが、一番大切なことは、生徒たち子どもたちの不安感を払拭するということ、そのために十分な説明責任を行っていくことが大事だと思う。
- ・学校部活動の地域移行という大改革は、多くの方の納得と合意を得るのに時間を要するものである。そのため、地域クラブの整備については地に足をつけて、着実に進めていくことが重要である。
- ・学校部活動の地域移行が時間のかかる改革である以上、同時に現行部活動についても、地域連携という手段、あるいは地域展開という手段を活用して、合同部活動化等を図りながら、部活動指導員などの外部支援人材を積極的に入れて、地域移行を補完していく必要がある。
- ・学校部活動に関わる受け皿は、行政の力だけでなく、スポーツ関係者、文化・芸術関係者、青少年健全育成関係者、学校支援地域本部の方々など、地域と一体となって整備していくことも重要だと思う。
- ・中学生や先生、地域の方々に、部活動に代わる新しい価値を提供するのだという視点で取り組めば、多くの方々の共感、納得感を得られるのではないかと思う。
- ・これまでの部活動の良さを引き継ぎながら、生涯スポーツ・生涯学習に繋がるモデルをつくっていくような、そういった新しい価値を生み出していく、あるいはそれを強く説明していくことが、教育委員会事務局としても、あるいは板橋区としても重要になっていくと思う。

まとめの発言

【区長】

教育委員からの意見を受け、区立中学校の部活動が果たす大切な役割や意義については、継承しながら、生徒の活動機会の持続可能性を維持するためには、地域における、生涯スポーツ・生涯学習につながる、新しい価値を生み出していくことが重要であることを理解した。

そのため、可能性とチャンスを広げる学習の場として、機会が提供できるよう、保護者や地域の理解を得ながら、教育委員会と区長部局がより緊密に連携・協働し、地域移行に向けた取組への検討を深めていきたい。